

株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

平成27年3月期 (第54期) 報告書
平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

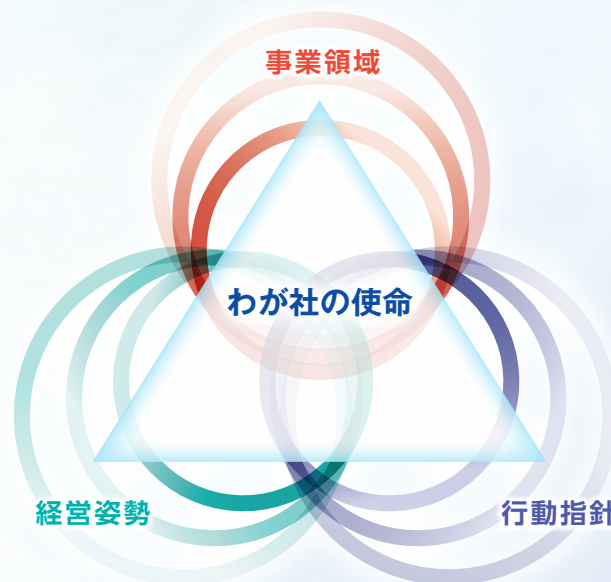
enplas



株式会社エンプラス

Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 07. 特集「つたえる」を生み出すエンプラス
- 08. 連結財務の状況
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。

株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。



代表取締役社長 横田大輔

Q 当期(第54期)の経営実績についてお話しください。

当社のコア事業であるエンブラ事業関連では、当社主力製品であるプリンター用部品は市場競争の加速により横ばいで推移する一方、自動車用部品は、米国を中心とした自動車販売増加の影響を受け好調に推移いたしました。半導体機器事業関連につきましては、半導体の世界市場全体が好調に推移したこと、特にスマートフォン、タブレット用途の好調を背景に主要顧客向けの販売が増加し、海外調達の拡大による原価低減や円安効果もあり、売上・営業利益ともに前年度を上回ることができました。オプト事業関連では、主力のLED用拡散レンズは、引き続きLED光源液晶テレビの中でもコストメリットのある光源直下型タイプの採用が進んだものの、新興国市場への拡販が遅れ、販売は足踏み状態となりました。光通信関連の光学デバイスにおきましては、新興国を中心としたスマートフォン需要拡大を背景に、サーバー市況が好調に推移したため、受注が増加いたしました。この

結果、当期の連結売上高は前期比増加したものの、損益面においては、前期実績を下回る結果となりました。

Q 当期(第54期)は海外展開が積極化されましたが、具体的に実施した施策についてお話しください。

当期におきましては、コーポレート機能の強化、および事業体制強化として研究開発、最先端設備、人材への積極投資を行い、グローバル事業推進に向けた基盤強化を行ってまいりました。

コーポレート機能におきましては、取締役会の監督機能の強化、およびコーポレートガバナンス体制の強化を目的として、社外取締役2名を新たに迎えました。また、自己株式の取得を継続的に行い、株主の皆様への積極的な還元を図ってまいりました。

事業体制におきましては、テクニカルマーケティング機能の強化を目的としてイスラエルのハイファに Enplas (Israel) Ltd. を設立し、半導体機器事業関連ではヨーロッパ

株主の皆様へ

2拠点（ドイツ Enplas (Deutschland) GmbH.、イタリア Enplas (Italia) S.r.l.）と併せ本格稼働いたしました。エンブラ事業関連は、東南アジア地域の営業活動強化を目的とし、バンコクに営業事務所を、オプト事業関連は中国地域強化を目的とし、深圳支店を設立いたしました。さらに新たな市場としてバイオ分野に注目し、市場調査と基礎技術研究を行ってまいりましたが、平成26年11月に、ライフサイエンス分野、とりわけ遺伝子関連の受託検査領域において独自の技術を有する株式会社DNAチップ研究所との間で資本業務提携契約を締結し、平成26年12月に第三者割当による新株および新株予約権に対する払込みが完了いたしました。本資本業務提携により、DNAチップ研究所が有する生化学分野の知見と業界ネットワークを活用し、バイオ関連事業の開発を加速してまいります。

Q 今期（第55期）の取り組みについてお話しください。

当社グループは、1事業に偏重した収益体質を最大の経営課題と捉え、①広い事業基盤の構築、②技術の先鋭化、③グローバル顧客対応力の強化、を重点的に推進しております。

各事業における具体的な取り組みとしましては、基幹事業であるエンブラ事業関連は事業構造改革の推進を図るとともに、ソリューションと機能価値の提案による高付加価値製品の提供を、半導体機器事業関連はシンガポール本社を中心に世界各地に展開する販売子会社と連携した顧客サポート体制の強化を、そしてオプト事業関連ではLED用拡散レンズの高機能品の開発および新興国市場での拡販等の諸施策に積極的に取り組むことにより、持続可能な成長を実現してまいります。

Q 株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により強固な財務体質を堅持するとともに、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勧奨して、配当の決定を行っております。

また、当社では自己資本利益率（ROE）および1株当たり当期純利益（EPS）を事業活動の成果を示す重要な経営指標と位置づけており、その維持・向上をはかるため自己株式の取得も進めております。内部留保しております資金は、経営基本方針に則り、今後の事業展開を踏まえ、中長期的展望に立って生産設備投資、研究開発投資、情報化投資や新事業創出のためのM&A資金などに積極的に振り向けるとともに、将来の収益力の向上を通じて株主の皆様へ還元できるものと考えております。

なお、当期配当につきましては、中間配当として1株当たり40円を実施いたしました。期末配当金については1株当たり40円、通期で1株当たり80円とさせていただきます。

Q 株主の皆様へ一言お願いします。

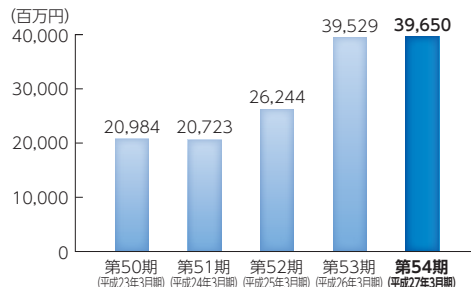
私たちは、これまで培ってきた高精度・微細加工技術をもとに、当社にしかなし得ない高付加価値製品の開発に挑戦し、お客様に感謝される製品・サービスを提供することで、豊かな社会の発展に貢献してまいります。そして、さらなる最先端技術を追求し、世界に新たな創造的価値を提供するイノベーションカンパニーを目指してまいります。

今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻をたまわります様、よろしくお願い申し上げます。

連結業績の推移

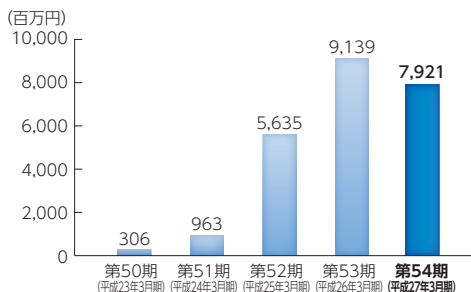
■ 連結売上高

1



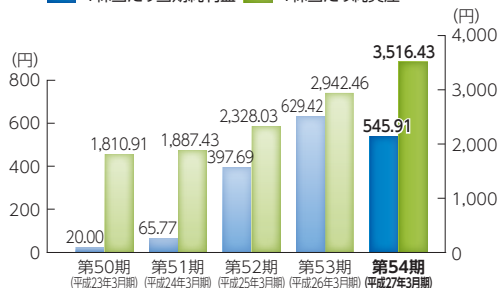
■ 連結当期純利益

3



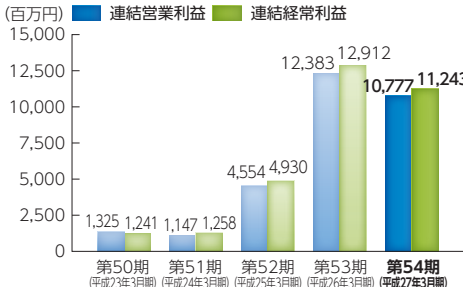
■ 1株当たり当期純利益 / 1株当たり純資産

■ 1株当たり当期純利益 ■ 1株当たり純資産



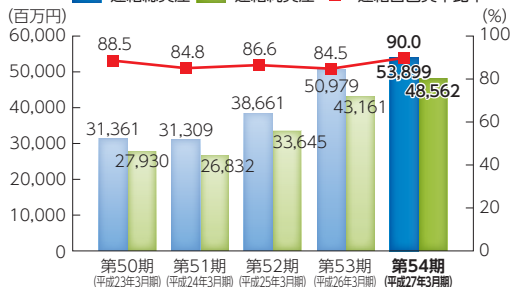
■ 連結営業利益 / 連結経常利益

2



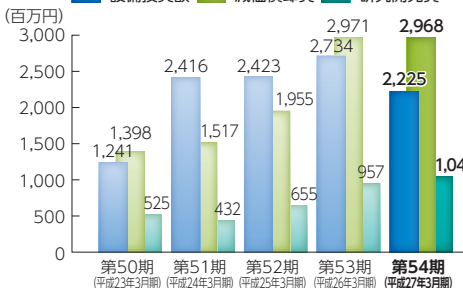
■ 連結総資産 / 連結純資産 / 連結自己資本比率

■ 連結総資産 ■ 連結純資産 ■ 連結自己資本比率



■ 設備投資額 / 減価償却費 / 研究開発費

■ 設備投資額 ■ 減価償却費 ■ 研究開発費



ポイント 1

当期における連結売上高は39,650百万円(前期比0.3%増)となりました。

ポイント 2

連結営業利益は10,777百万円(前期比13.0%減)、連結経常利益は11,243百万円(前期比12.9%減)となりました。

ポイント 3

連結当期純利益は7,921百万円(前期比13.3%減)となりました。

ポイント 4

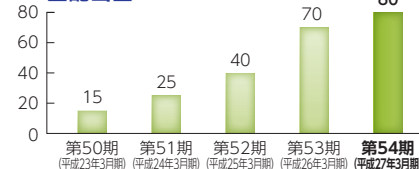
連結純資産は48,562百万円(前期比12.5%増)、自己資本比率は90.0%(前期比5.5ポイント上昇)となりました。

株主還元について

1株当たり 配当金80円

当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当を1株当たり80円とさせていただきます。

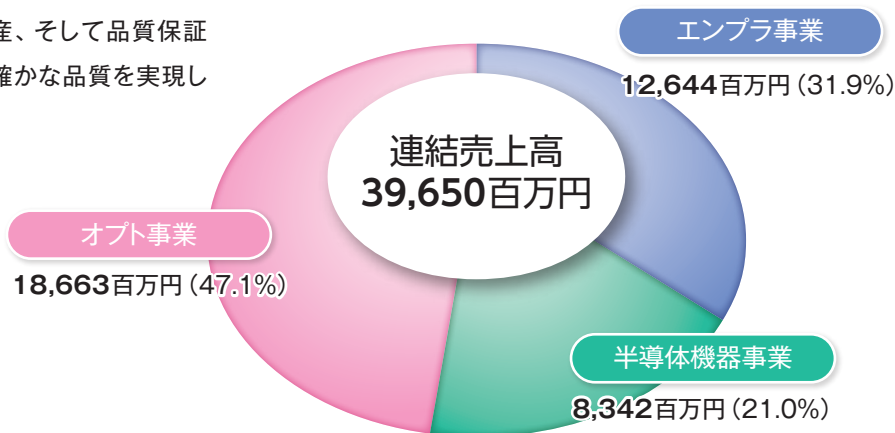
■ 配当金



事業別概況

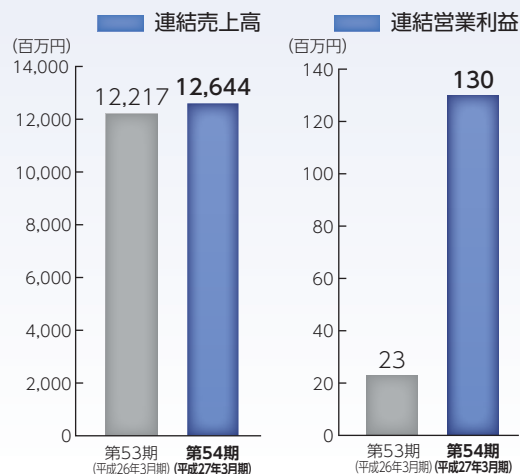
事業セグメント別連結売上高構成比 平成27年3月期 (平成26年4月1日から平成27年3月31日)

当社の各事業は、先進のオプティクスやエレクトロニクス技術を、基盤テクノロジーであるエンブラ技術に融合し、金型設計から量産、そして品質保証まで含めた一貫生産体制により確かな品質を実現しています。



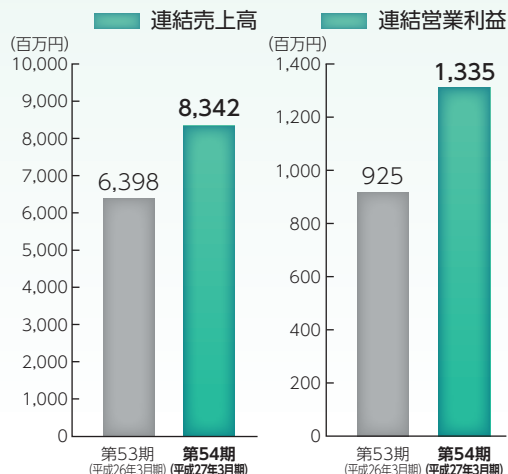
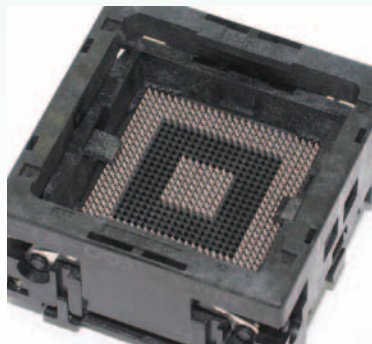
エンブラ事業関連

当社主力製品であるプリンター用部品は市場競争の加速により横ばいで推移する一方、自動車用部品は、米国を中心とした自動車販売増加の影響を受け好調に推移した結果、当期の連結売上高は12,644百万円（前期比3.5%増）、セグメント営業利益は130百万円（前期比464.6%増）となりました。



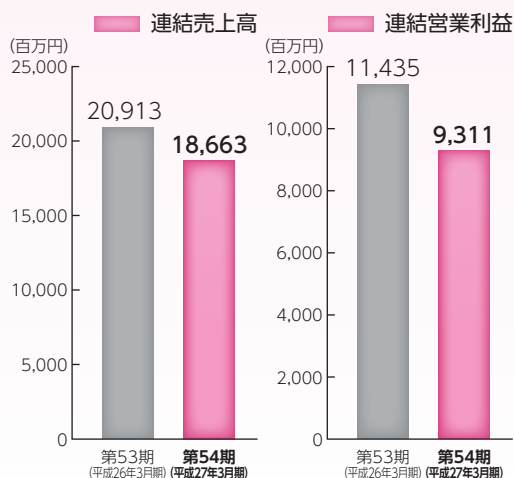
半導体機器事業関連

世界市場全体が好調に推移したこと、特にスマートフォン、タブレット用途の好調を背景に主要顧客向けの販売増加、海外調達による原価低減や円安効果もあり、当期の連結売上高は8,342百万円(前期比30.4%増)、セグメント営業利益は1,335百万円(前期比44.3%増)となりました。



オプト事業関連

主力のLED用拡散レンズは、引き続きLED光源液晶テレビの中でもコストメリットのある光源直下型タイプの採用が進んだものの、新興国市場の成長鈍化の影響を受け、販売は足踏み状態となりました。光通信関連の光学デバイスにおきましては、新興国を中心としたスマートフォン需要拡大を背景に、サーバー市況が好調に推移したため、受注が増加しました。この結果、当期の連結売上高は18,663百万円(前期比10.8%減)、セグメント営業利益は9,311百万円(前期比18.6%減)となりました。



「つたえる」を生み出すエンプラス

エンプラスの製品は、動力、電気、光源などのパワーを無駄なく効率的に「つたえる」機能をもっています。実際、皆様が直接当社の製品を見ることは少ないと思いますが、当社は私たちの生活をより豊かなものにするべく、最先端技術を追求し、世界中のお客様に喜んでいただける製品とサービスを提供してまいります。

エンプラスの事業の概要

力を
つたえる



エンプラス事業

メカニクス

半導体機器
事業

電気を
つたえる

プリンター用ギヤ
2輪用部品
4輪用部品

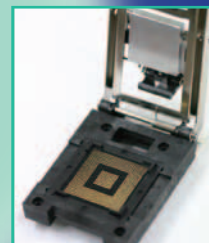


バイオチップ*

※バイオチップとは、シリコンやガラス、樹脂等の基板表面に化学処理もしくは微細加工が施されたデバイスを用いて、DNAやタンパク質、細胞などの生体物質を大量且つスピーディーに検査分析するチップの総称。(DNAチップ、マイクロ流路等)

エンジニアリング
プラスチック

エレクトロ
ニクス



半導体用
バーンインソケット

オプティクス

オプト事業

光を
広げてつたえる

光を
つたえる



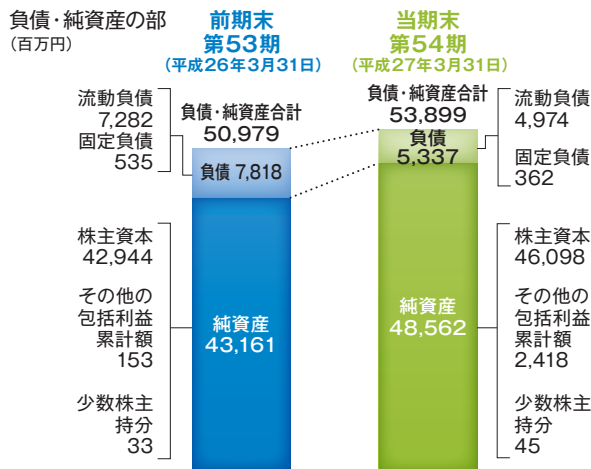
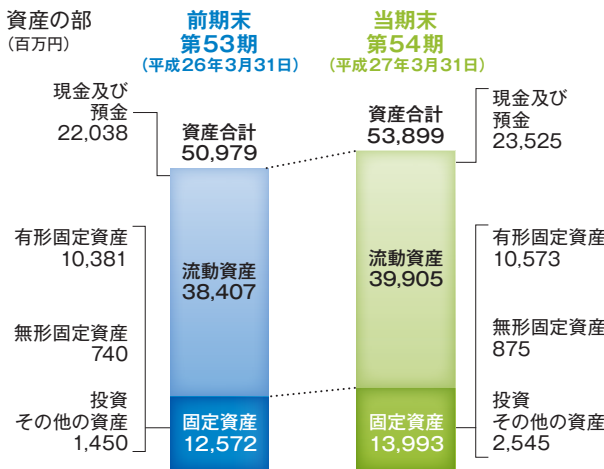
光通信レンズ



液晶TV用レンズ
照明用レンズ

連結財務の状況

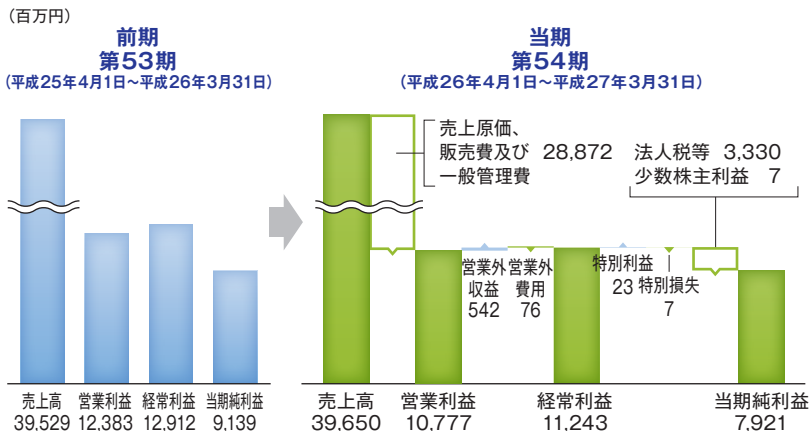
■ 連結貸借対照表の概要



資産合計増加の主な要因は、有価証券で1,100百万円、繰延税金資産で436百万円減少したものの、現金及び預金で1,486百万円、受取手形及び売掛金で675百万円、その他で503百万円増加したことによるものです。

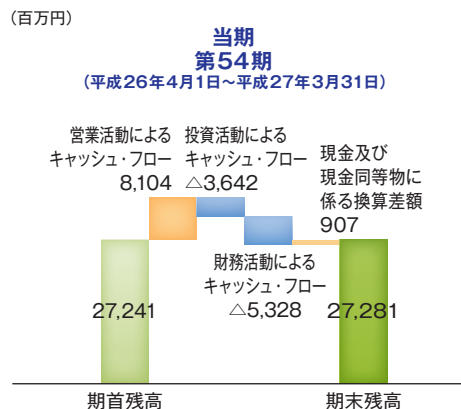
負債減少の主な要因は未払法人税等で2,450百万円減少したことによるものです。純資産増加の主な要因は市場買付により自己株式で1,119百万円増加したほか、利益剰余金で7,080百万円増加したことによるものです。

■ 連結損益計算書の概要



連結売上高は39,650百万円(前期比0.3%増)となり、連結営業利益は10,777百万円(前期比13.0%減)、連結経常利益は11,243百万円(前期比12.9%減)、連結当期純利益は7,921百万円(前期比13.3%減)となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要



当期における現金及び現金同等物は27,281百万円となり、前連結会計年度末に比べて、40百万円増加しました。

会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(平成27年6月26日現在)

(平成27年3月31日現在)

会社概要

商号 株式会社エンプラス
所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
設立 1962年2月21日
資本金 80億8,045万円

株式情報

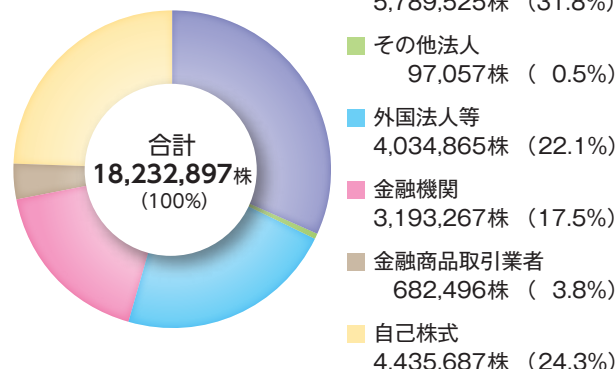
発行可能株式総数 62,400,000株
発行済株式総数 18,232,897株
株主数 6,752名

取締役および執行役員

代表取締役兼社長執行役員	横田 大 輔
取締役兼専務執行役員	酒井 崇
取締役(監査等委員)	ヨーン・ヨン・リオン
取締役(監査等委員)	風 巻 成 典
取締役(監査等委員)	長谷川 一 郎
常務執行役員	菊 地 豊
執行役員	沓 沢 茂 雄
執行役員	星 野 清 孝
執行役員	君 塚 元 一
執行役員	宮 坂 章 司
執行役員	藤 田 慈 也

当社は監査・監督機能の強化とコーポレート・ガバナンスの一層の充実に目的とし、平成27年6月26日の第54回定時株主総会での承認をもって、監査役会設置会社より監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 東京証券代行株式会社
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社本店および全国各支店で行っております。
〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター(お問い合わせ先) ☎ 0120-49-7009
郵便物送付先、連絡先
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
公告方法 電子公告(<http://www.enplas.com>)
ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。
貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (<http://info.edinet-fsa.go.jp/>)にて開示しております。
上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部

グローバルネットワーク

国内ネットワーク

本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号

鹿沼工場

栃木県鹿沼市さつき町7番2

名古屋営業所

愛知県名古屋市中村区名駅2丁目45番7号 松岡ビル3階

国内グループ会社

株式会社エンプラス研究所

埼玉県川口市並木2丁目38番5号

QMS株式会社

埼玉県川口市上青木1丁目3番12号

■ 西日本営業所

大阪府大阪市淀川区宮原2丁目14番4号 MF新大阪ビル9階

株式会社エンプラス半導体機器

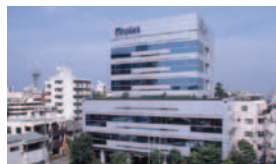
埼玉県川口市上青木1丁目19番57号

■ 九州営業所

福岡県福岡市博多区博多駅南1丁目2番3号
博多駅前第1ビル2階

株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



本社
株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



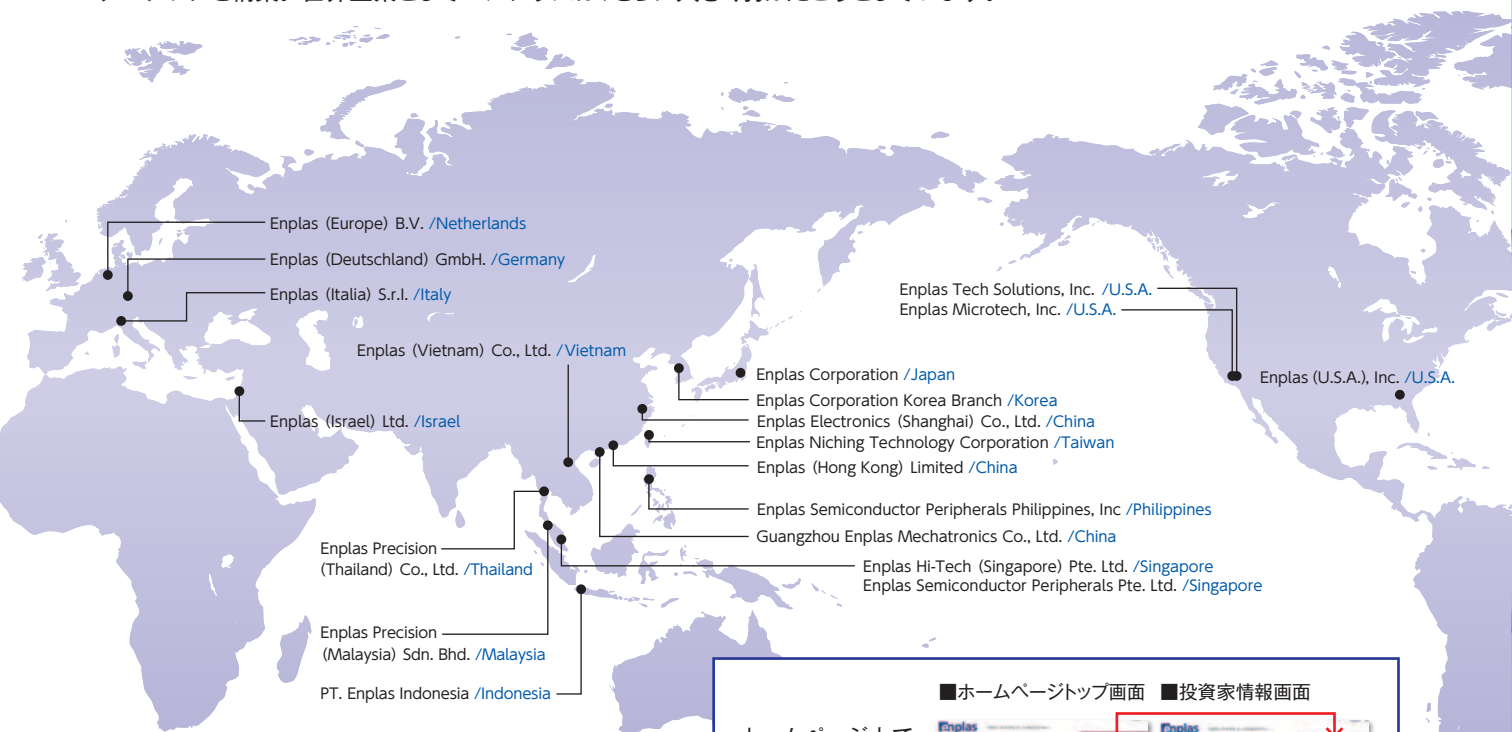
株式会社エンプラス研究所

グローバルネットワーク

■ 海外ネットワーク

技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688
http://www.enplas.com

UD FONT

見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

■ ホームページトップ画面 ■ 投資家情報画面

